



令和3年2月18日
報道提供資料

布佐中学校区地域学校協働活動が
令和2年度「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰を受賞

令和2年度「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰において、布佐中学校区地域学校協働活動が文部科学大臣表彰を受賞しました。

地域全体で次代を担う子供たちを育成するために地域と学校が連携・協働し、地域の教育力の向上を図り、社会総掛かりでの教育の実現をめざすことを目的とした表彰です。

地域学校協働活動推進に係る文部科学大臣表彰は、コミュニティ・スクール導入が要件となっており、布佐中学校区では、令和3年度から学校運営協議会を設置しコミュニティ・スクールとして市内の中学校区に先駆け試行実施します。今年度要件を満たし、我孫子市、千葉県 の推薦を受け受賞が決定しました。

令和2年度は、全国で111件の活動が認められ表彰を受けます。小中一貫教育を推進する中で、解決できなかった家庭学習の定着を地域にも協力できないかという問いかけから、地域でできることは地域で行うという発想が生まれ、地域団体をはじめ、地域の店舗や大学生などの協力を受け実施している「子ども学習室」等が評価され、受賞となりました。

なお、布佐中学校区地域学校協働活動は、平成26年度から始まりましたが、小中一貫教育の推進時期を入れると10年近くの活動になり、今後コミュニティ・スクールとして新たな一歩を踏み出します。

【表彰式】

1. 日 時：令和3年2月25日（木）14：00～14：30
2. 出席者：山下 正信（布佐中学校 地域コーディネーター）
3. 場 所：文部科学省旧文部省庁舎6階講堂

【別添資料】

別紙 布佐中学校区地域学校協働活動内容

【問い合わせ】

我孫子市立布佐中学校

校長 小林、地域コーディネーター 山下

☎ 04-7189-2426

子どもたちの豊かな学びを様々な形で地域がサポート ～学習習慣の定着や授業支援から生涯学習の基礎づくりまで～

千葉県我孫子市	●活動名	●関係する学校名
	布佐中学校区地域学校協働本部	我孫子市立布佐中学校 我孫子市立布佐小学校 我孫子市立布佐南小学校

協働活動開始年度	平成 26 年度	学校運営協議会	指定・設置日	令和3年4月1日設置予定	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動		地域課題解決学習		—	
	地域未来塾		放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数	
	1人				11人	
ボランティアの数	延べ登録人数		企業・NPO等との連携		ICT機器活用	
	245人		有		有	
参考URL	https://schit.net/abiko/fusa-jh/ https://schit.net/abiko/fusa-minami/ https://schit.net/abiko/fusa/□					



●連絡先	我孫子市教育委員会指導課	☎ 04-7185-1367
------	--------------	----------------

●活動の概要・経緯

江戸時代より利根川の舟運で栄えた歴史と文化の薫り高い布佐の町の人々に支えられ、150年の歴史を誇る布佐小学校や、生徒や教職員・町民総出で田を埋め立て開校した布佐中学校、そして高度経済成長に合わせて開発された住宅地に開校された布佐南小学校の学区を基盤としている。30数年前より始まった中学校のクラブ活動(茶道・華道・書道・琴・三味線・郷土芸能・柔道等)の地域住民講師による活動を母体として、児童生徒の学びに合わせて学校支援ボランティア活動も多様化し、地域学校協働活動へと発展してきた。東日本大震災では被災地となり、地域と学校が連携協力し復興に携わり絆が深まるとともに、我孫子市による小中一貫教育の推進に合わせて、小中地域連携運営協議会が設置された。また、平成26年度から総合的な学習の時間の小中一貫カリキュラム「郷土学習・ふさカリキュラム」も実施された。平成28年度からは地域住民による児童生徒の家庭学習・学習習慣の定着、形成を目的とする「ふさ子ども学習室」の運営も開始された。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

全ての活動は、子ども達の豊かな学びを様々な視点から支援していくために、学校だけでなく地域(家庭)と学校が一体となり「市民・地域社会の担い手の育成を地域が行う」という先人の教えや行いを伝承・発展させていく必要があるという確固たる地域の意志に支えられている。また「ふさカリキュラム」の取組は、地域と共に歩む学校づくりを積極的に地域と関わり推進することで、地域人口の減少や高齢化、過疎化が緩和されるとともに、新しい時代をたくましく生きる人間を育成するために、地域の人的・物的教育資源の活用は不可欠であるという意識を、地域と学校で共有・共通理解したことが原動力となっている。郷土の誇りや伝統文化の断絶という危機感も共に認識され、ふさ子ども学習室等の新しい取り組みに繋がっている。

【実施に当たっての工夫】

長年の地域と学校との様々な人的な学習支援を中心とする関わりの中で構築された繋がりがや仕組みを、カリキュラム・マネジメントの視点から整理・統合する必要があり、総括的なコーディネーターと共に学校が丁寧に進めていくことが大切であると認識し進めている。行政との関わりも、制度や支援体制の変化に対応できるよう関係者と共通理解を図るようにしている。

【関係機関・団体等との連携状況】

地域学校協働活動への移行をスムーズに行うため行政・関係団体との連携は丁寧に進めている。我孫子市のCS制度の導入(令和4年度)に向けて学校評議員会議と小中地区連携運営協議会を廃止・統合し、市内他中區に先行し令和3年度からの学校運営協議会を発足する。各小中コーディネーターを構成員として連携を図り、放課後児童クラブや未来塾との一体的な取組も推進していく。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

「おらが学校」という住民意識も強く、学校の為ならと協力を惜しまない住民も多い一方で、東日本大震災による液状化による被害、住民の減少・高齢化等地域の課題も多くある。学校が積極的に学校を開放し、施設の住民の利用や児童生徒の地域行事(学区寺社の祭礼参加や合同避難訓練等)への参加を積極的に行うことは、地域の人的・物的な教育的資源の活用にもつながり、互いに笑顔で、子どもたちの学びのために尽力し、子どもたちの笑顔が地域を活性化するという関係が構築された。また、地域(家庭)でできることは地域で行うという発想も生まれ、放課後の「子ども学習室」(空き店舗や自治会館等利用)の企画・運営はすべて地域住民により推進されている。

●その他

ICT支援員を活用してICT機器活用推進やICT教育の充実を図っている。また、我孫子市ボランティアセンター「てとりあ」、NPOあびこ自主夜間中学校「プラスワン」などの関係団体とも情報の共有を図っている。



「ふさタイム」は30数年間地元講師により実施されている。



地元偉人の生き様を知る「ふさカリキュラム」のコーナーを図書室に設置し資料収集を進めている。



夏休みのみならず、夏休みや高校生の学習会や大学生も参加している。